



山中魂

～正義 勇気 土根性～

新潟市立山の下中学校たより

令和6年11月1日発行

第19号 校長 武藤 雅雄

10月29日 元気と感動を与えてくれた諸声祭 スローガン『天歌夢奏（てんかむそう）』

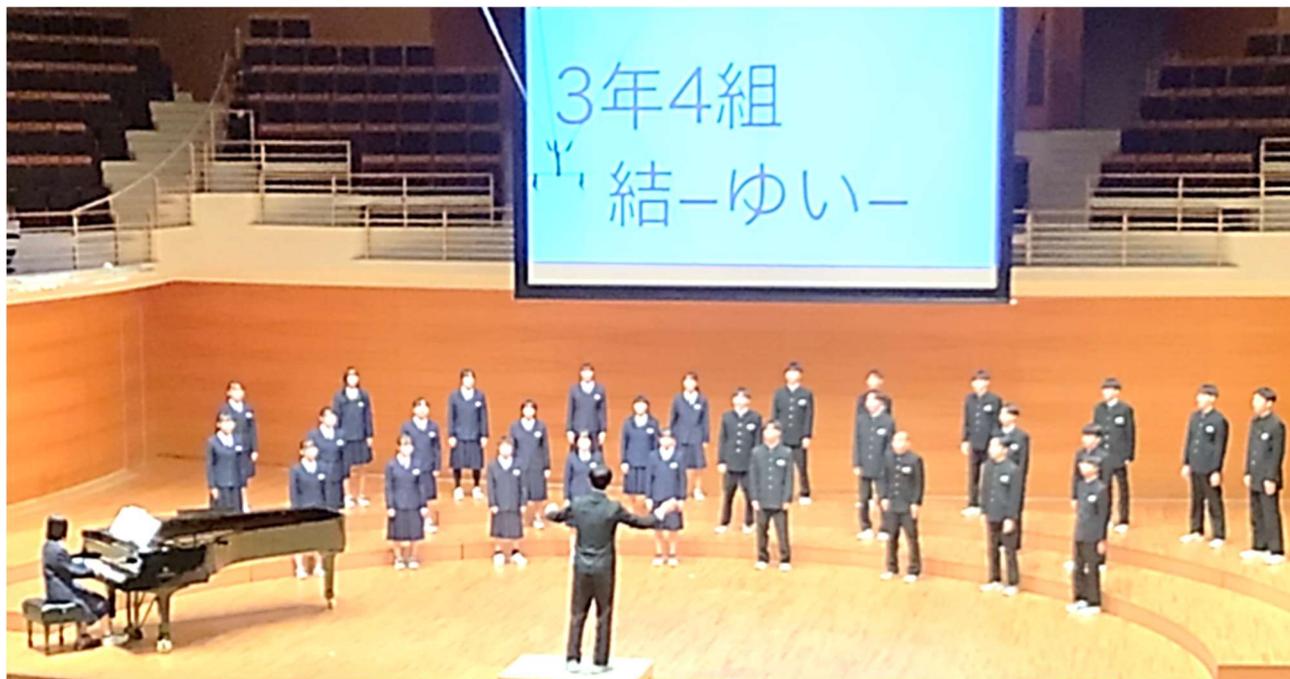
諸声祭 実行委員長 笹川

諸声祭を振り返って、初めは音程やリズムなど、様々なことが難しかったです。しかし、練習を重ねていくうちにうまくなっていきました。本番では、練習の成果を発揮して、どのクラスも最高の合唱になっていて感動しました。実行委員として、どのようにしたら諸声祭を円滑に運営できるのかを考えて行動しました。諸声祭を通して、クラスの絆が深まったり、いい思い出になったりして、とても良かったです。



3年生 諸声賞 4組 五十嵐

僕は練習の中で、大きな声で指示を出すことができず、全体への意見もあまり出すことができませんでした。しかし、パートリーダーや指揮者、伴奏者、実行委員といったリーダーが、たくさんの意見を出してくれました。何よりも、クラスのみんなが当たり前のように話を静かに聞いたり、真剣な態度で練習したりしてくれて、うれしかったです。そんな結束力のある4組に、「結」という曲がぴったりだったなと改めて思います。中学校生活最後の諸声祭で、大好きな3年4組のみんなと諸声賞を取れた思い出は一生大事にしたいです。クラスを一つにした「結」と3年4組のみなさん、ありがとうございました。



3年1組



3年2組



3年3組



2年生 諸声賞 2組 阿部

私たち2組は、始めは声量が足りなかったり、強弱がなかったりなどの改善点がありました。そんな中、リーダーを中心に新たな改善点を見つけたり、よかった部分をほめ合ったりしながら、練習に取り組んできました。本番では、曲名の「輝くために」のとおり、クラス全員が輝き、これまでの成果を発揮することができました。諸声賞を糧に、これからの学校生活もがんばっていきます。



1年生 諸声賞 2組 佐藤

1年生にとって初めての諸声祭でした。特に大変だったことは、全体をまとめることです。始めは男子が話を聞くのが遅かったり、練習場所への移動に時間がかかったりして、練習を始めるのに時間がかかりました。しかし、パートリーダーと協力しながら、声をかけ合って、素早く練習が始められるようになりました。そのおかげで、本番では難しい出だしの部分もうまくいきました。諸声祭での全員の努力や、得た経験を、生まれた絆を生かして、後期も高め合っていきたいです。



閉会式 表彰



P T A文化教養部主催 医療福祉大学ダンス部

